



# 金沢経済大学同窓会誌

# きずな

## 第11号

2000.09.

発行所/金沢経済大学同窓会事務局  
〒920-8620 石川県金沢市御所町丑10-1  
事務局 TEL・FAX(076)251-9876  
大学 TEL(076)253-3924

発行責任者:中田邦雄 編集発行人:菅村洋一

同窓会会員 現在11,928名



## 私をめぐる人のきずな

金沢経済大学 学長

岡田 達

晃

「きずな」とは、つなぎとめる網、離れたい情実などを意味するが、人と人とのきずなは人々との強い結びつきであり、その強い結びつきの効果は、人の歩む道すなわち人生に多大の影響を与えることは確かであって、その人の生きざまをつくりだしていくものである。

人がきずなを築きはじめるのは小学校の頃からであろう。小学校の同窓生とのきずなは大切な存在であり、今もその結びつきは強い多面で活躍している人々から成り立っているだけに話題も豊富でその集まりは楽しい。多大な影響を受けたのは恩師であるが、小学校一年から三年まで担当して頂いた中山操先生は、美しい先生であったという印象が強く、今も美しく、そして健在である。

私は運良く旧制七年制高等学校の最後の尋常科生になることができた。これは今の中高一貫教育に相当するが、全く異なるのは、卒業すれば当時の帝国大学、すなわち東京大学や京都大学にはほとん

ど無試験で入学できる仕組みになっていたことである。したがって大学入試のための勉強などはほとんどする必要がなく、読書やスポーツに熱中し、青春をまさしく謳歌することができた時代であったのだ。もつとも昭和二十年を境として敗戦によって入試地獄もはじまり、高等学校を卒業しても旧制の大学に入学できない人々を白線浪人と称したが、そんな白線浪人で溢れた時代という、いわばそんなしわよせにも遭遇した。この七年間をともしに過ごした人の中から一人だけあげるとすれば、大学こそちがったが同じ医師になった親友の高橋芳雄君がいる。彼は内科医であり、また三十数代続いたお寺の住職でもあるが、まさに温厚篤実、人望のある高潔な人である。二人とも一年間白線浪人であったが、その頃彼の家で御馳走になったハワイ直輸入のコーヒーの味は今も覚えている。私のこれまでの大きな変わり目、節目に常に力になってくれ、相談相手になってくれた人であり、私にとって最も必

要な、そして最も大切なきずなをもち続けてくれている人なのである。

私が札幌医大教授から金沢大学医学部に教授として赴任できたのは、恐らく豊田文一元金大長、正印達元医学部長らとの旧制高等学校同窓生というきずながあったからとも言える。そして金沢にとつていわば余所者である私が金大の医学部長、学長になれたのも永野前科学警察研究所長、永坂金城大学副学長などのきずなを中心とした人々のご支援によるものであった。また日本学術会議第七部長、大学基準協会副会長になれたのもその間に形成された人と人とのつながり、つまり人脈によるものであった。そして金沢経済大学学長に就任できたのも理事である合田弁護士との古い堅いきずなによるものである。金沢大学はかつて城内にあり、金沢経済大学は御所町にあり、人のきずなによって城に住んでいた身分が今こうして御所の住人になることもでき、大変喜んでいる。

### 「プロフィール」

昭和四十二年二月二十二日 富山県生

学歴 昭和二十九年三月 北海道大学医学部医学科卒業

昭和三十三年十二月 医学博士(北海道大学)

職歴 昭和四十二年七月 札幌医科大学教授

昭和四十七年十一月 金沢大学医学部教授

平成二年一月 金沢大学医学部長

平成五年九月 金沢大学 学長

平成七年五月 大学設置・学校法人審議会委員

平成十一年十月 学校法人福園学園顧問

平成十二年四月 金沢経済大学 学長

学校法人福園学園理事就任

賞 昭和六十三年八月 国際環境複合影響研究大賞

平成元年十一月 金沢文化賞

平成四年十月 労働大臣功績賞

平成九年十一月 石川県知事表彰

## 同窓会会長年間職務日誌

月日	行事名	場所
H.11. 4/12	稲置学園評議員会	金沢経済大学会議室
5/21	稲置学園評議員会	金沢経済大学会議室
5/21	大学関係者との懇談会	金沢スカイホテル
5/27	学園本部・大学事務局との打合せ	金沢経済大学事務局
6/5	関西支部第1回総会・懇親会	大坂東急ホテル
6/19	常任理事会	ホリデイ・イン金沢
7/17	理事会	金沢スカイホテル
7/30	稲置学園評議員会	金沢経済大学会議室
8/14	星陵女子短期大学同窓会20周年パーティー	金沢全日空ホテル
9/10	同窓会事務局との打合せ	同窓会事務局
9/15	関東支部第1回総会・懇親会	ホテル国際観光会館
10/2	常任理事会	ホリデイ・イン金沢
11/20	東海支部第1回総会・懇親会	「幸帆亭」名古屋市
H.12. 2/19	三役会	金沢東急ホテルロビー
2/25	石川県庁支部総会・懇親会	石川厚生年金会館
2/26	稲置学園同窓会役員懇親会	金沢スカイホテル
3/11	金沢経済大学卒業記念パーティー(II部)	金沢東急ホテル
3/14	金沢経済大学卒業式	稲置記念館講堂
3/14	金沢経済大学卒業記念パーティー(I部)	金沢全日空ホテル
3/17	稲置学園評議員会	金沢経済大学会議室
3/21	山村勝郎学長送別会	金沢東急ホテル

## 稲置学園常務理事 鈴木透氏の叙勲を祝う

この度の春の叙勲に際し、当学園の常務理事、星陵女子短期大学初代学長でありました鈴木透氏が、勲四等旭日小授章を受賞され、去る六月十日(土)叙勲を祝う会が金沢ニューグランドホテル金扇の間において午後六時より開催されました。



多年にわたる私学振興と私学教育に貢献された功労が認められての受章となり、その栄誉はご本人のみならず学園の榮譽でもあり、多くの学園関係者に並び同窓会からも正副会長が列席し、氏の栄誉を讃えました。今後ますますのご活躍と学園の発展に寄与されんことをご祈念申し上げます。

## 編集後記

猛暑を越えて、酷暑となった今年の夏、日本列島を駆けめぐり様々な現象は、まるで世紀末そのものの様な気がします。

同窓会の支部設立に取り組んで三年目、富山、福井の支部設立準備会の日程も具体化し、そのネットワークづくりが順調に稼動することを願うばかりです。新しい絆を結ぶことで巨大な歯車が日本中をめぐり、金沢経済大学同窓生の渦を巻き起こしたいものです。「きずな」第十一号をお届けします。支部活動や支部の同窓生の活躍が届けられるのもまもなくだと思われれます。どしどしお便りを下さい。

### 新学科開設 2000年4月にスタート(商学科を改組)

#### [ビジネスコミュニケーション学科]

しなやかな発想力と実践力を持ち、先進のコミュニケーション手段を駆使し、世界で活躍できる人材を育成する。

生産者と消費者の双方向な  
経済関係を追求

#### ビジネス分野

経営実務・戦略・消費者運動、  
経営情報システム、経営戦略、  
税務会計、貿易etc.

グローバル社会に通用する  
国際的センスを養う

#### 国際関係分野

国際金融、国際経済、多国籍  
企業、ユーロ経済、環境問題、  
経済開発・海外援助etc.

## 金沢経済大学

資料請求 TEL(076)253-3922

FAX(076)253-3991

<http://www.kanazawa-eco.ac.jp/>

プレゼンテーション社会に  
即、活用できる能力を磨く

#### コミュニケーション分野

語学、異文化コミュニケーション、  
マーケティング、企業広報、マルチ  
メディア、インターネットect.

#### [経済学科]

経済学の基礎から、地球から、地球環境にかかわる経済問題まで、幅広いフィールドを網羅した学びのエリアによってゼネラル・エコノミストを育てます。コースを選択するとともに、各自の興味や関心に沿ったゼミナールに属することで専門性を究めていきます。

国際経済の

ダイナミズムを感じる

#### 日本と世界コース

自国はもちろん世界各国の文化や伝統といった、多様な価値観を学習。ボーダレスに動き続ける国際経済の分野で活躍できる素養と視野を育みます。

経済学の視点から

人間と自然の共生を考える

#### 生活と環境コース

地球環境とのより良い共生が叫ばれている昨今。さまざまな学問分野も積極的に取り入れ、環境と経済のかかわりから起る問題を解決できる人材を育成。

斬新で柔軟な発想で、

地域経済の活性化策を探る

#### 地域と産業コース

「地方分権」の流れの中で、地域の特性とニーズを尊重し、生活と産業の向上に貢献できる地域経済政策を企画・立案できる人材をめざします。

歴史を理解することから

未来経済の構想が始まる

#### 歴史と文化コース

経済の歴史をひもとくことでその法則性を、各地域・民族特有の文化とその経済システムの多様性を探究することで、未来を見据える力を育てます。



# 同窓会との絆きずな

金沢経済大学図書館長・教授  
金沢大学名誉教授・理学博士

藤ふじ  
則のり  
雄お

同窓会は、小学校から大学までの何れの場合でも、一人ひとりの心の奥に残る追憶のメッカ。それが同窓会である。

同窓会結成の理由は、総じて、まなび学校を同じくした者の親睦と母校発展への支援にある。

私は、戦中・戦後の国家と学制の大変革期に在学したので、学校は同じでも、入学時と卒業時で校名が異なる。小学校入学で国民学校卒業。旧制県立中学校入学で旧制中学卒業。県立第一高校入学で藤島高校卒業など。

私が所属の同窓会は、小学校・旧制中学校・高校・大学・大学院、それに外国留学による米国立大学等で、併せて六つに入会している。

これら同窓会は、それぞれに特色がある。小学校のそれは過去四十年間毎年開催。会えば竹馬の友との語らいで、現在の地位や経歴

を忘れ、六十余年前の児童期にもどつての想出に花が咲く。大学や大学院の同窓会は、学業が職業に直結することから、学会時に開催され、話題は研究・教育等に限られ、小学校の同窓会とは趣を大いに異にする。

これら同窓会のうちで、私の最も印象に残るのは、波瀾重畳の時代を過ごした旧制中学校・高校のそれである。

私が旧制中学・高校に在学したのは、第二次世界大戦末期から敗戦直後の、日本が曾て経験した事のない、日本の政治体制が崩壊した、政変・教育大変革の時代で、日本中が混乱に直面した時代であった。大戦末期には軍事産業への協力と毎日の食生活に喘ぎ、餓餓寸前。あらゆる物品が巷に溢れ、飽食に甘んずる新人類には想像し難い時代である。そして、昭和二十年七月の福井空襲、八月の敗戦

の大洪水、それに続く食糧難時代。このような大混乱からようやく立ち直り、六三制の新学制が施行され、中学四年への進学時に、新制高校が発歩し、私達はその第一学年となった。当時の中学生は、難関旧制一高を始めとする旧制高校進学に向けての猛勉強をしていただけに残念がった。

新制高校の発歩と同時に、教育内容の大改編、男女共学という当時としては全く画期的な改革があった。そして、昭和二十三年六月の、あの忌わしい福井大地震。ようやく落着きを取り戻した県下の教育界も再度の混乱、進駐軍による強制的学区制によって学友は県下の各高校に転学させられた。

憶えば、誠に波瀾に富んだ中学・高校時代であった。しかし、考えてみれば、それは日本の歴史史上でも未曾有のことだけに、この稀有の経験は、やはり、私のその後

の生き方に大きな影響を与え、今日地球科学研究をなすに至った一因でもある。当時の社会的混乱と教育の改変による戸惑いは、その故にこそかえって精神面で成長させてもらった。

物心両面において順境であるにこした事はないが、それも時には考えものである。不思議なもので、恵まれていると、かえって人間は成長しないこともある。人間は、自分の力量と同じ事をやっていたのでは、後退する。より困難な事に挑戦し、克服してこそ人間は成長する。その素晴らしき精神力と行動力の根幹は、青春期にこそ培われ、鍛えられる。それは、私の青春の一駒であり、同期同窓生の強い絆の一因でもある。

金沢経済大学同窓会のご発展と会員のご活躍を祈念します。

プロフィール  
昭和六年 福井県生  
学歴  
昭和三十二年 東北大学大学院理学研究科修士課程了。  
職歴  
昭和三十二年 金沢大学理学部に任官、助教を経て教授。教育学部長(三期六年間)・評議員等で全学・学部・附属学校等の改革に参画。  
平成九年 金沢大学名誉教授。  
金沢経済大学教授。

専攻 地球科学(古環境科学)  
その他  
朝日学術奨励賞・北國文化賞・金沢市文化賞・石川県文化功労賞等。

\*「気候変動と地磁気の相関説」を天皇・皇后に御進講(平成三年)  
\*国際第四紀学会議完新世委員長  
\*国際花粉学会議日本代表委員。  
\*石川県二十一世紀教育推進会議「会長・金沢市環境審議会会長等、他。



# 関西支部第二回総会報告

関西支部の第二回総会が、京都の「からすま京都ホテル」にて六月四日(日)午後一時より開催されました。

金沢より中田同窓会会長、三好、菅村両副会長、大学からは遠路特別に杉本事務局長が参加、佐久間関西支部長の開会の挨拶で総会が始められました。

第一回の総会より一名参加者が増えて十名、それに、からすま京都ホテルの担当者が同窓生とのことで、親近感を覚える集まりとなりました。また、一人がひとり誘い合えばすぐに参加者が増えるのではとの意見交換がされました。

さて、特別参加となった杉本事務局長より、大学の近況報告があり、さらに、少子化による学生数の減少が本学にも影響を及ぼし始めていることから、関西支部での学生確保は同窓生が大きな力になるものと期待したい、との依頼がありました。

同窓生としての絆を深めることで母校の発展を支え合う、と云う使命もまた支部活動にとって大切な項目としての認識を参加者一同強くいたしました。

午後三時、金沢での同窓会にも是非参加を、と呼び掛けて散会となりました。  
〔支部より参加された方々〕  
米崎恵三、鹿無悟、澤田俊一、市谷千吉郎、佐久間裕、吉本大吾、吉田孝哉、藤田義、川浪明、村上仁昭  
(順不同・敬称略)



## 新潟支部設立準備会

平成十二年七月三十日(日)午前六時三十八分特急北越一号にて金沢駅を出発。中田同窓会長以下、三好、鳥居、菅村三副会長揃っての新潟行きとなった。

午前十時二十四分新潟駅に到着。強烈な日差しに迎えられて駅を出る。目的の新潟東急インは駅前、眼前にあった。

出席予定者の氏名は分かっているが、人物を特定できる者はいない。やや早めに会場に入り、一時の緊張感の中、新潟地区の卒業生名簿に目を通す。  
午前十一時半、定刻となるも出席予定者の一名が未だ来場しない。



携帯電話で、返信された葉書の電話番号にコールするも不在のようである。定刻を二十分ばかり過ぎても現れないため、設立準備会合は開始された。  
中田同窓会長の会合目的の説明があり、各自の自己紹介で近況が報告された後、新潟支部設立にあたって、本日出席の小川健一氏(一部八期生)を支部長として依頼することが満場一致で採択された。また、副支部長には、高桑泉氏(一部十二期生)、小栗実氏(一部二十三期生)が小栗氏は会計を兼任、さらに、小池直也(一部二十三期生)が事務局長として選任され、今後の支部活動の陣容が決まった。  
午後二時過ぎ会場を後にし、新しい支部の設立がスタートしたことの安堵感を語り合っ帰路についた。その日は、気温三十七度とこの夏一番の暑さを記録していたとのこと。

### 集れ！同窓生諸君

#### 福井支部設立準備会へ

とき 平成十二年十月十五日(日)  
午前十一時三十分  
ところ ホテルニューユアーズ  
福井市大手町二一四一八  
TEL(〇七七六)二四一三二〇〇  
参加費 五、〇〇〇円(懇親会費含)  
\*出欠は、同封のFAX用紙にご記入の上同総会事務局(〇七六)二五一一九八七六あて、九月末日迄にご送信下さい。

### 集れ！同窓生諸君

#### 富山支部設立準備会へ

とき 平成十二年九月二十四日(日)  
午前十一時三十分  
ところ 名鉄トヤマホテル  
富山市桜橋通り二の二八  
TEL(〇七六)四三二一三二一  
参加費 五、〇〇〇円(懇親会費含)  
\*出欠は、同封のFAX用紙にご記入の上同総会事務局(〇七六)二五一一九八七六あて、九月二十日(水)迄にご送信下さい。

# 母校の発展を見据えて 平成十二年度理事会開催

各地の支部設立本格化



平成十二年度理事会がホリデイ・イン金沢に於て六月三日(土)午後六時より開催されました。当日は常任理事を含め四十三名の出席を得、オブザーバーとして稲置理事長、岡田晃学長のご出席のもと、清水総務委員長の司会進行で開会、中田会長の挨拶の後、会則に基づき中田会長が議長となり議題の審議に入りました。

まず役員選出につき、平成十二年度大学同窓会役員名簿の説明があり、承認を得ました。引き続き、田中企画委員より平成十一年度決算書の報告があり、池尾監事より監査報告が行われました。更に、平成十二年度予算案が提案され、質疑応答を経て承認されました。また、支部開設が具体的に進行していることが報告され、今後の同窓会の活動の活発化への期待を出席者全員で歓迎の意向を確認いたしました。

最後に、大学の名称変更に関する議題につきオブザーバー出席の稲置理事長・岡田学長より、理

事会への出席のお礼のあと、本題の大学の名称変更の議案につきその経緯・趣旨及び教授会・学友会の審議状況等の補足説明を受け、同窓会の賛同を得られるようにのご発言のもと、中田議長より賛否の問い掛けがあり、協議の結果全員異議なく承認されました。午後六時半、ご来賓に稲置理事長、吉島本部長、岡田学長、服部経済学部長、白川部教務部長、大畠就職部長、藤岡図書館長、鍵主任経済学部長、宮口人間科学研究所長のご出席を戴き、懇親会に移り、稲置理事長のご挨拶に続き、岡田学長の乾杯で開宴されました。

途中、宮口人間科学研究所長並びに、遠路わざわざご出席をした斎藤周一(一部五期生)東海支部長のスピーチがあり、服部経済学部長の方歳三唱をもつて中絶とし、午後八時半に散会となりました。



## 平成11年度同窓会決算書

平成11年4月1日～平成12年3月31日

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
前期繰越金	5,524,827	事業費	733,733
入会金	4,880,000	人件費	537,750
受取利息	125,222	通信費	1,241,645
雑収入	111,528	消耗費	255,874
		在校生補助	890,000
		理事会費	282,128
		支部助成金	60,000
		旅費交通費	189,070
		広告費	51,500
		学園懇親会費	71,032
		同窓会館積立金	119,134
		予備費	100,000
		次期繰越金	6,109,711
合 計	10,641,577	合 計	10,641,577

【特別会計 同窓会館積立金】・・・26,475,954円

## 平成12年度同窓会予算書

平成12年4月1日～平成13年3月31日

収 入		支 出	
科 目	予算額	科 目	予算額
前期繰越金	6,109,711	事業費	900,000
入会金	4,890,000	人件費	540,000
受取利息	120,000	通信費	1,400,000
雑収入	80,000	消耗費	100,000
		在校生補助	800,000
		理事会費	350,000
		支部運営補助	350,000
		旅費交通費	300,000
		広告費	50,000
		学園懇親会費	70,000
		同窓会館積立金	110,000
		予備費	600,000
		次期繰越金	5,629,711
合 計	11,199,711	合 計	11,199,711

\*前期繰越金項目処理を承認

# 活躍する同窓生



坂本北陸証券株式会社  
取締役社長  
北出 晟

(Ⅱ部二回生)

壁には大きな株式相場の電光掲示板が縦横に数字を表示している。時々点滅しては数字が変わっているようだが注視していないとほとんど分からぬ。デスクに置かれたディスプレイにも同じような画面が表示されている。担当者の手元の操作で時々グラフのようであったりしている。何やら騒々しい雰囲気の中へ紛れ込んだような錯覚を覚える。



しばらくお待ち下さい、と年輩の紳士、私が北出ですと、声をかけられてしばし待つ。接客中と見えて、社長が第一線で、と少し驚きました。どこか奥深くからお待ちしてました、と案内されるように思っていたことに不覚を覚えた。

二階の社長室は、ゆったりとしたデスクにあるパソコンのディスプレイがその存在感を限り無く主張している。早速インタビュアーに入るが、静かにそしてしっかりとした口調での話し方には、その博学ぶりや博識ぶりが随所で光る。流暢ではないがその語り口にいつしか引き込まれていく確信のようなものを感じる。職業から来るものなのか、ご本人の天性なのか。

昭和十年八月生まれの六十四歳、大蔵省財務局にて金融検査官を務めたこと、単位認定試験で所謂カンニングをしなかつたこと、講座の先生方の印象を語りながら懐かしそうに振り返って頑張っていた時代に納得の弁。



め、近畿大学で商経を学ぶも、四十歳前後で再度金沢経済大学に夜間部のあることを知り入学をする。ただ、近畿大学の単位取得の関係で第三学年からの就学となる。

ご自身の自慢は、学内食堂で食事の後の授業で眠ることがなかつたこと、単位認定試験で所謂カンニングをしなかつたこと、講座の先生方の印象を語りながら懐かしそうに振り返って頑張っていた時代に納得の弁。

平成元年六月に大蔵省財務局を退官、七月に坂本北陸証券株式会社にて経理部長として入社する。そして、常任監査役を経て常務取締役、本年六月二十七日の定時株主総会終了後の取締役会において、推薦をうけ第八代取締役社長に就任する。

制度改革による規則等の変更や自由化の進展に素早く対応して、株式売買のほか、安定収入を図る投資信託へも注力し、こまめな訪問、新規客の開拓導入、預かり資産の増大のほかに、更に取り組みむ必要を説く。



管理面では、組織上の役割、地位に応じた責任のもと、それぞれが役割認識を自覚することにより、内部牽制機能を発揮し、不祥事故の未然防止に常に留意して、日常業務に対処する必要がある、とす。そして、業務遂行上の自己管理、健康面の自己管理や家庭を大切にすること、社会的なボランティア活動を通しての交流が大切であると締めくくる。

厳しい時代の舵取りをまかされた北出社長の面目は、県の少年ソフトボール連盟理事長・市の連盟副会長と少年チームの監督を三十年以上も続けていて、スポーツ精神に基づく健全で健康的なまとも役としての顔でもある。多くの示唆を受けてのお話に、気負うことなく坂本北陸証券株式会社社長としての自信のみならずを感じ、地域に根ざした会社としての役割を十分に担った会社となったようである。

(会社概要)  
所在地 石川県金沢市下堤町25番地  
資本金 一億五千四百三十三万円  
沿革 明治四十年一月金沢市で坂本商店創業、昭和八年八月株式会社坂本商店設立、昭和四十六年十一月本社社屋新築、昭和四十九年十月北陸証券株式会社と合併、坂本北陸証券株式会社に商号変更  
平成三年七月本社社屋増築





# 学ぶことと実践すること

金沢経済大学 助教授

稲原 泰平  
いな はら やす へい

一九六七年(昭和四二年)に第一

回入学式を挙げて以来、本学の発展は目覚しく、その施設や卒業生の活躍などを見ても、北陸だけでなく全国的にも通用する私学の雄となっている。本学は経済学部だけの単科大学 College としてスタートしたが、今や、卒業生の規模や施設・カリキュラムの充実振りを見ると総合大学 University の趣がある。本学が時代と共に発展してきたことがよくわかる。このたび、二〇〇二年度から本学の名称も「金沢経済大学」から「金沢星稜大学」へと変更されることも種置理事長の御判断で決まったという。二十一世紀には複数学部と大学院をも保有して更なる発展を期さなければならぬ本学にとって名称変更も避けて通れないプロセスかもしれない。しかし、地元に残りしる家族的な雰囲気は、本学の長所として、いかに規模が大きくなっても

持ちつづけたいものである。

時代の変化は凄まじい。世界中がIT革命の渦に巻き込まれ、人間が技術を支配するのではなく技術が人間を支配する時代が来ようとしている。社会も変わり、社会のメンバーも変化を要求されている。大学も社会の一員として自己変革が求められている。入試募集活動の為に高校訪問をしてみて感ずるのは、「金沢経済大学はどう変わったんですか?」とか、「大学改革として何をやられているんですか?」といった質問が多くなっていることである。そこには、古いものは要らないし、変わらないものに関心はないといった目で大学を見るユーザーの視点がある。確かに大学は生き残りのための新たな競争の時代に入っている。本学が商学科を廃止して二〇〇〇年度よりビジネス・コミュニケーション学科を設置したのも時代の変化に対応して時

代の需要に因るために他ならない。

しかし、よく考えてみると、施設を拡充し学部学科を改組転換することはハードの整備である。大学は学生と教師というソフト面のレベルの向上を探究する宿命を負っている。あり、教育と研究の自分を忘れた大学はやがては淘汰されていくことを肝に銘じておかなければならない。その意味で大学間の競争は物心両面の優劣を競う本物の競争に入りつつある。省みて、私も教師もこの競争の時代に耐えられるかどうか自己点検してみる必要があるといえる。

か、自分では判断できない。しかし、

本年六月、アメリカ合衆国ハワイ州イオンド大学から「私どもの大学から名誉博士号を授与したいが、受ける意思はありますか?」との問合せをいただいた時、二十数年前の母校の恩師の言葉を思い出すと共に、これでよかったんだなと思ひ、大きなため息が出たものである。同大学からの名誉法学博士は本年九月に正式に授与される予定である。これも金沢経済大学で研究・教育に携わった成果であり、四十代という比較的若い時期にこのような荣誉に浴することができるのもOBの皆様はじめ現役生諸君のご支持があったからこそ思っている。私事に亘る話をしてしまったが、厳しい大学間競争の時代に筆者のソフト的価値が本学の発展に幾分かの寄与をなし得ればと思

プロフィール

昭和二十五年 富山県生

学歴

昭和五十四年 慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻博士課程修了

経歴

昭和五十四年 日本国土開発株式会社入社

昭和五十七年 新日本通商株式会社入社

昭和五十八年 新日本貿易株式会社設立

昭和五十九年 取締役

昭和六十年 学校法人観明館 教諭

平成五年 高岡法経専門学校 講師、教授

平成七年 金沢経済大学非常勤講師

平成八年 中央法律専門学校(豊島区) 講師、副校長

平成十年 中央法律専門学校(豊島区) 講師を兼任

平成十年 金沢経済大学助教授

